

# SPELT

November 2014 Vol.3, No.2

实用英語教育学会

# NEWSLETTER

## 目次

### 巻頭言

实用英語教育学会 会長 釣 晴彦

第3回研究会(2014年10月11日)

### 特別講演 「学習を促進する評価のデザイン」

當作 晴彦(カリフォルニア大学 サンディエゴ校)

報告

实用英語教育学会

杉浦 理恵

高等学校中国語教育研究会より

### 『當作先生と高等学校中国語教育研究会～外国語教育の明日を創る「つながり」』

松山 美彦(北海道登別明日中等教育学校 教諭・  
高等学校中国語教育研究会 代表理事)

REX-NET 北海道事務局より

### 「学習を促進する評価のデザイン」に参加して

渋谷 圭(北海道札幌手稲高等学校教諭・  
REX-NET 北海道事務局)

### シリーズ「小学校からはじまる实用英語教育 第6回 “Sir” と “Ma’am”」

实用英語教育学会

久野 寛之

### お知らせ

SPELT 特別ワークショップ「北原延晃 先生による英語授業研修会」(2015年1月24日) ほか

# 巻頭言

## 実用英語教育学会 第3回研究会を終えて

実用英語教育学会会長 釣 晴彦  
札幌学院大学人文学部 教授

実用英語教育学会も第3回研究会を終えました。ニュースレター発行に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

今回の研究会は、初めての合同研究会でありました。国際文化フォーラム、中学校・高校英語研究会、中国語高校研究会、そして実用英語教育学会の4団体共催の研究会でした。

「学習を促進する評価のデザイン」という表題の下、カリフォルニア大学サンディエゴ校の當作靖彦教授が、講演の後ワークショップを設定してくれました。當作氏は、第二言語習得理論と外国語教授法の専門家であると同時に、長年アメリカで外国語としての日本語教育に携わり、外国語教員養成やグローバル人材養成について活発な講演や著述活動を行っておられます。ルーブリックという言葉を知っていますが、実践的に現場でそれを作成して検証しているかと言えば、なかなか出来ていないのが現状ではないでしょうか。最近では評価の大事さは理解していても、評価が形骸化してしまうことも事実であります。それはなぜでしょうか。やはり、評価作業の繁雑さや、現場での多忙さにも起因していると考えます。

課題とされる内容が目まぐるしいほど次々と変わり、その上に、成果が短期的で求められるようになってきました。新しい施策などでは、実施から報告書の提出までの期間が非常に短くなっている傾向にあります。信頼性に問題があるにもかかわらず、アンケートが多用されるのも、簡便に数値が得られることが大きな理由であります。多忙になった割には充実感や達成感が乏しい、という嘆きを小学校・中学校・高等学校の管理職や教師から聞くことが多くなりました。様々な創造性あ

る活動は評価の活動も含めませんが、余裕の時間から生まれると考えます。

変化に遅れないことや、早急に成果を上げる努力も必要です。しかし、動きが激しい時代だからこそ目の前の現象に右往左往せず、長期的な視座から過去を冷静に分析し、遠い将来を見通しながら教育の在り方を考えることも、重要ではないでしょうか。

その意味において今回、評価をもう一度、1人ではなくてグループに分かれて問い直し考え直すワークショップが出来たことは、大変意義のある時間だったと考えます。

當作氏は交流会の中で私に「日本はグローバル化と叫んでいながら、英語のみの言語選択をさせ、評価も教え方も依然としてステレオタイプ型から抜け出していない。」と熱く語ってくれました。

最近「実用英語教育」への批判的考察として書かれた論文を読みました。そこに批判されていることは、もっとも納得できることばかりです。「使える英語」を習得することの難しさであり、素地の大事さも理解できます。「実用か教養か」で争うのは無意味であります。両方とも英語教育には必要不可欠なものであるからです。

実用英語教育学会は、英語教育関係者ばかりではなく活動を広く共有出来る方々に発信して参ります。

第4回の研究会を通して、英語以外の語学を教えている先生方との新たなソーシャルネットワークが広がった点は実用英語教育学会の今後の活動の展望として評価ができると考えます。

今後とも一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 第3回研究会 <特別講演・ワークショップ>

### 学習を促進する評価のデザイン

カリフォルニア大学 サンディエゴ校 當作 靖彦 教授

テストは、以前は「受かる、落ちる、振り分ける、成績をつける、順位を付ける」といった目的で実施されると考えられていました。しかし、1990年代に評価の主要目的は、「学習者を助ける」ことに大きく変化しました。つまり、テストは「教師中心から学習者中心」、「知識のテストから能力のテスト」、「学習結果を見るテストから学習過程を見るテスト」へと変わってきたのです。これは教育におけるテストの役割が、生徒が次に進もうとする時の「壁を作る」のではなく、「橋をかける」ものであるという考えに則しています。

具体的な評価の例として、4つのイラストの状況を説明する口頭能力テストの採点法を検討していきます。資料として10種類の評価表を配布しています。お座りの列ごとに、採点に使用する評価表を2種類ずつ割り当てますので、口頭能力テストの発話サンプルを聞いて、レベルを判定したり、得点をつけたりしてください。評価が終わったら、隣の方と評価結果とその理由について比較してみてください。実際に評価表を用いてみて、どの評価表が良いと言えるでしょうか。

紹介した評価表には、口頭発表を総合的に評価する全体的評価、文法や語彙、発音などを分析的に評価する要素分解評価、重点的に評価対象とする項目について得点を加重化して評価するものなどがあります。また、採点方法もレベルを判定するもの、得点をつけるもの、コメントを与えるものなど様々です。どの評価表が最も良いかという点ですが、どのような場合にも常に良いということは、実はありえないのです。教育には、「教育目標」「教育活動」「評価」という3要素があり、「評価」を考える際には他の2つの要素が大きく関わってきます。したがって、教育の環境に応じて適切な評価表は異なってくるということになります。

評価をする際には、何を評価するのが明確で

なければなりません。そのためには、教育の目標を予め設定し、その目標を達成させるための教育活動を行い、評価するというサイクルを実施することになります。目標は、学習が現実生活と結びつくように、習ったことを使って実際に何ができるかということがわかるような、具体的なものを設定すべきです。例えば、一年間の学習の終了時に「簡単な日常会話ができる」という目標を設定した場合、学生にとって「日常会話」とは何かを考えて、「簡単な買い物ができる」「自分の家族を紹介できる」というように、より具体的な目標を設定することが必要です。さらに、「簡単な買い物ができる」ということを、現実生活でどのようなことができるかと考えれば、「デパートに行って、店員の手伝いが得られれば、予算の範囲内で、母のためのバースデーギフトを買うことができる」という詳細な記述が可能になります。

こういった記述を Can-do ステートメントと呼びますが、学習後に何ができるようになるかというアウトカムを重視するアメリカの教育では、外国語教育だけでなく国語科や歴史科など他教科においても、シラバスに Can-do ステートメントの記述が求められています。教育カリキュラムを決定する際には、「教育目標を立てた後に、その目標を達成したかどうかを調べるテストを作成し、テストを念頭に、何をどのように教えなければならないかを考えて教え、評価を実施する」というように、予め評価を考えた上で教育を行うという、カリキュラムのバックワードデザインが大切です。

今回のワークショップでは、評価で用いるルーブリックを皆さん自身に作成していただきます。ルーブリックは、学習の結果やプロセスを評価する採点基準を明確に記述したガイドラインのことを指します。ルーブリックは通常、評価項目、レベル、評価記述の3つから構成されています。ル

ルーブリックには、内容や文法、発音など評価要素を分けずに、総合的に評価する全体的評価ルーブリックと、評価要素に分けて評価する要素分解評価ルーブリックがあります。これらは、目的と場合によって使い分けられます。例えば、採点の時間を節約したい時や総合的な情報が必要な場合には全体的評価、学習者の長所・短所を見分けたい時や、学習者により詳細なフィードバックを与えたい時には要素分解評価を用いることができます。評価の対象となる要素は、自分の教えた内容を反映したものを選択し、どの要素を重視して評価するかを考えて加重化することも考慮します。

レベルは、学生が行ったパフォーマンスの良し悪しの度合いを示しますが、3段階以上を設定することが望ましいと考えられます。記載する際には、「4, 3, 2, 1」などの点数や、「目標以上を達成、目標達成、目標達成までもう少し、もっと努力が必要」などの表現が考えられますが、できるだけネガティブな表現は避けるほうがよいと思われます。なお、左に高いレベルを記載したほうが、学生にポジティブな印象を与えるようです。

ルーブリックの3つ目の要素である評価記述については、必須ではありませんが、少なくとも一番高いレベルの記述はあったほうがよいでしょう。ただ、フィードバックを学生に与える場合には、すべてのレベルについて記述したほうがよいと考えられます。レベル間の違いがはっきり分かるように、また各レベル間の差が同様になるように記述することが必要です。評価基準の記述の例としては、4つのレベルで記述する場合、4には評価対象者として最高レベルの実践を記述し、3には実践の結果としてよいと認められる上限を記述し、この3のレベルを目標達成のレベルと考えることができます。2には、実践の結果としてよいと認められる下限を記述し、1には実践の結果としてよいと認められない状況を記述することが可能でしょう。具体的には、口頭発表の「内容」について評価する場合、「4. 必要な内容以上を創造力を使って表現。細かい点も詳しく説明している。内容も正確。」「3. タスクの目的に適切な内容をカバーしている。創造力を使って詳しく説明してい

る部分もある。内容も正確。」「2. 必要な内容を大体カバーしているが、細部は示されていない。内容はほぼ正確。」「1. 最低限の内容、あるいはそれ以下しかカバーされていない。内容に間違いもある。」のように記述できます。この場合、実際にルーブリックを作成する際には、3のレベルの記述から書き始めると書きやすいと思われます。

ルーブリックを用いて評価する際は、「日本の姉妹都市から来る高校生のために、自分の町のレストランガイドを書きなさい」というように具体的なタスクを学生に提示する必要があります。能力評価に用いられるタスクには、「手紙、新聞のコラムを書く」「劇、スキットをする」「ポスターを作る」など、様々なものが考えられます。

今回は、隣に座っている方とペアになり、自己紹介を場面として、評価のタスクを作成してみます。評価のタスクは、単に「自己紹介しましょう」ではなく、具体的に記述する必要があります。次に、全体的評価にするか、要素分解評価にするか、要素分解評価の場合には、評価する項目を決め、得点を加重化するかを決めてください。さらに、レベルをいくつかにするかを決め、評価基準の記述も記載しましょう。ペアでの作成が終了したら、別のペアとルーブリックを交換し、互いのルーブリックについて意見交換をしていただきます。

ルーブリックは、教師だけのものではありません。ルーブリックを効果的に使うためには、授業を開始する際に学生に予めルーブリックを渡しておき、どのようにすれば良い評価を得られるかを説明しておくということが考えられます。そうすることで、学生に学習方法を理解させることも可能になります。また、自己評価や学生同士の評価にルーブリックを用いたり、学生自身にルーブリックを作成させたりすることも考えられます。

作成したルーブリックは、何度も使い、改善していくことでよいものになっていきます。他の先生に見てもらい、一緒に使ってみることも効果的でしょう。ルーブリックを活用し、評価とクラスの活動を結びつけながら、学習を促進するよう教師は考えていかなければなりません。

(文責: 編集委員 杉浦理恵 東海大学准教授)

## 當作先生と高等学校中国語教育研究会～外国語教育の明日を創る「つながり」

松山 美彦（北海道登別明日中等教育学校 教諭・高等学校中国語教育研究会 代表理事）

高等学校中国語教育研究会（以下、「高中研」）北海道支部の松山と申します。この度の當作先生のワークショップ「学習を促進する評価のデザイン」に協力団体として関わる機会を得、小学校から大学まで校種を問わず「実用英語」について研究と実践を積み重ねていらっしゃる実用英語教育学会の皆様と交流の機会を得ましたことを大変嬉しく思っております。これを機に言語の枠を超えた外国語教員の交流が進み、新たな「つながり」が生まれることを願っております。

高中研北海道支部は、今年で第11回目となる「北海道地区高校生中国語発表会」の開催を軸に活動しているささやかな会ではございますが、大学入試の対応などをほぼ考えなくてもよい環境の中、自由にかつ大胆に中国語教育に取り組んでおります。外国語を教えるという同じ枠組みで考えると、経験やノウハウの蓄積が豊富な英語の先生方からはこちらが学ぶことばかりでしょうが、何かの際にまたお声をかけていただければ幸甚です。

さて、REXプログラムの派遣教員として中国で日本語を教えた経験があります私にとりまして、當作先生から、日本語教育の分野でも多くの示唆をいただきましたが、高校中国語を担当する教師の間でも當作先生に強く影響を受けている先生は大勢います。

高中研は2012年に30周年迎え、中国語教育学会と合同で「21世紀の中国語教育を考えるーグローバル社会を生きる人材を育てる視点から」というテーマで千葉にて研究大会を開催しました。その際の基調講演の講師が當作先生でした。「新しい時代の言語教育の目標領域と位相ー文法、語彙、コミュニケーションは教えられるか」というテーマでお話をいただきました。

また、今回のワークショップの主催者でもあり、高中研の事務局として会を支えてくださっています（公財）国際文化フォーラムが主宰し、高中研会員有志が参加したプロジェクトの成果として発行された『外国語学習のめやす2012：高等学校の中国語・韓国語教育からの提言』（以下『めやす』）の監修者が當作先生でした。高等学校の外国語科

の学習指導要領に、中国語教育について「英語に準じて行う」以外の記述がない状況が続き、研修の機会がほとんどない中、當作先生の理論と実践は高校中国語教員にとって勇気と希望を与えるものであったと言っても過言ではありません。

『めやす』では、言語教育の理念として「他者の発見、自己の実現、つながりの実現」を掲げ、「人間形成とグローバル社会を生き抜く力の育成」を言語教育の目標としてあげています。そして現実社会に通用する「総合的コミュニケーション能力」の獲得を学習目標としています。これは、當作先生

（2013a）の外国語教育に対する考え方「外国語学習の目標を異文化コミュニケーションの相手として外国語、外国語文化使用者を意識し、『つながり』が達成できるように外国語教育を行うことは、単に外国語、外国文化の能力を身につけるだけでなく、新しいグローバル時代を生き抜き、社会を変えて行ける人間を作ることになる。」及び先生（2013b）が提唱していらっしゃる「ソーシャルネットワーキングアプローチ（SNA）」の影響を大きく受けています。

そのような中、札幌で當作先生のお話を直接聞くことのできる今回の貴重なワークショップに北海道支部から沢山の教員が駆けつけました。現場の教員が学習者の実態に合わせて試行錯誤で取り組み、頭を悩ますことの多い評価についてでしたが、3時間半があつという間に過ぎ、ループリックによる評価の「学習効果を上げることができる。学習者に自分の学習を内省する機会を与える。評価目標、評価基準が具現化される。」という良さが実感できました。また、英語教育、ロシア語教育の先生方と意見を交換する時間もあり、新しい視座を得ることができ、大いに刺激を受けました。

最後になりましたが、このような紙面での発表の機会まで与えてくださいましたことに感謝申し上げます。終わりと致します。ありがとうございました。

<参考文献>

（公財）国際文化フォーラム（2012）『外国語学習のめやす2012ー高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』  
當作靖彦（2013a）「新しい時代に対応した外国語教育とは」『高等学校中国語教育研究会会報』第22号、17-26。  
當作靖彦（2013b）『NIPPON3.0の処方箋』東京：講談社。

## 『学習を促進する評価のデザイン』に参加して

渋谷 圭（北海道札幌手稲高等学校教諭・REX-NET 北海道事務局）

### 『個人的な Rubric の思い出』

私は、2000年から2002年まで、文科省の海外日本語教師派遣 REX(Regional Exchange)プログラムで米国カリフォルニア州の州都の隣町に派遣された。当時の米国は No Child Left Behind 運動の前夜、外国語教育ではナショナル・スタンダードが打ち立てられ、更には5つのC (Communication, Culture, Connections, Comparisons, Communities) を遂行せよ、とのお達しにより、学校区内の5つの高校の日本語教師が放課後に一堂に介した。まずは「ルーブリックを作ろう」というのだ。スタンダード、ベンチマーク、ルーブリック、SAT...当時はついていくのに必死だった。ルーブリックが、英語教師として抱き続けた、評価に対する不安の解決に役立つものであることに気がついたのは、帰国後だった。

### 『SPELT との共同開催』

當作先生の著作『ようこそ』がいかに優れた日本語の教科書であるかは、REX 派遣の事前研修の様々な日本語教科書のレビューを通して理解していた。著者の當作先生のワークショップを札幌で開催したいという話を、TJF (公益財団法人国際文化フォーラム) の室中さんからお聞きし、米国で長く日本語教師をされ、『ようこそ』のレビューの1人でもある SPELT の久野先生にお話をしたところ、札幌大谷大学を会場として REX-NET と SPELT の共同開催となった。

日本語 (国語)・中国語・英語の、小・中・高・大の語学教師が集まり、「知識から能力へ」「成績をつけることから学習者を助けることへ」「学習結果を見ることから学習過程を見ることへ」「多項選択から自由回答へ」というパラダイム・シフトの明快な理由付けから、評価項目の設定の実際をご指導いただいた。4時間以上にもなる長丁場だったが、當作先生は一度たりとも着座されることはなかった。語学教師はエネルギーに満ち溢れていなければならないのだ。

### 『気付きの発芽』

「○○先生の指導は△△だから、□□しなければいい点もらえないよ」「いや、私のところは●●先生だから□□はしなくても大丈夫」こんな会話を日常的に生徒がしているのを耳にする。学習項目そのものよりも教師個人の評価の特性に気を遣っている。学校の規模が大きくなり、同じ科目の教師が増えるほど、その傾向は強くなる。一方、効率悪く学習を進めて疲れる生徒もいる。ルーブリックで自分の学習過程に「気付く」ことによって、自分の学習計画管理が簡単にできるようになり、指導者の顔色をうかがう必要もない。学習を進めることの純度が高まる。評価方法の改善は、学習者の無駄を削ぎ、教える者と教えられる者のフェアな関係を築き、魅力ある学校運営をひき寄せる。

### 『ルーブリックの威力』

ワークショップ終了後には當作先生を囲んで懇親会が行われ、お互いに知られざる語学教育現場の現状などを話しつつも、その場で非公式『ルーブリックの会』が設立された。会長となった稲毛先生 (札幌開成高校) は既にルーブリックをご自身の実践で活用しておられ、私が運営に関わっている高校生の英語の部活動の大会のひとつ、英語スピーチコンテストの審査員をお願いしたところ、ご自身でルーブリックを作って提供していただいた。このおかげで、審査員個人の主観・フィーリングに拠るところが大きかったスピーチ評価の「ばらつき」が改善され、上位者選出のための議論もそれぞれの審査員が納得できるものとなり、審査の時間も大いに短縮された。

### 『ようやく追いついた』

「Can-Do リスト」は、高校英語教育界限ではあちこちで聞かれるようになった。そしてワークショップ前日に中央教育審議会が示した大学入試改革の答申案は「覚える」から「考える」ことへのシフトであり、最重要課題は評価の基準作りである。日本の教育の動きと見事にシンクロナイズされたワークショップだったのである。



## 第6回 「“Sir” と “Ma’am”」

### “Yes, sir.” は奴隷が主人に使う表現？

筆者が小学生の頃、『巨人の星』というテレビ漫画が大人気でした。プロ野球をテーマにした所謂“根性もの”で、主人公は星飛雄馬という某球団（わかりますよね）のピッチャー。毎週末の土曜の夜、バッターに向かって運命の一球を投げるところで終わり、次の1週間は、飛雄馬が打たれるかどうかという話題で持ちきりになったものです。

そんな『巨人の星』のある回のエピソードに、米国南部出身の大リーガーで、オズマというアフリカ系選手が登場します。実は、そのオズマの言った一言がいまだに記憶に残っています。そして、今回のテーマは、その表現にまつわるお話です。今も忘れられないその一言とは、主人公星飛雄馬の父一徹が、わが子飛雄馬の魔球“大リーグボール1号”を打つための特訓をオズマにしている場面で発せられた一言でした。自己中心的で横柄なアメリカ人オズマでしたが、一徹だけは「ボス」と呼んで敬意を払い、言われる通りに従っていました。そのオズマが一徹の指示に対して“**Yes, sir.**”と答えるのを聞いた取材中の記者が「最高にいい返事じゃないの。アメリカじゃ、奴隷が、絶対服従しなければならない主人に対して使うような表現だからねえ。」というようなことを言ったのです。もう40年以上前のことなので、うろ覚えもいところですが、確か、そんなようなシーンでした。当時はまだ〈黒人〉ということばが普通に使われ、黒人＝奴隷という印象を強く持っていたのでしょう。それで、「そうか、“**sir**”っていうのは奴隷が主人に使うことばなんだ。」と思い込んでしまったようで、そのために、そして、本当にその記憶のために、28歳でアメリカ南部のジョージア州で暮らし始めた時、ファーストフードレストランの店員さんが私に“**sir**”という表現を使うのを聞いて、とても大きな違和感を覚えたものです。

でも、ジョージアで生活しているうちに、“**sir**”という表現は、名前のわからない男性に対する敬意の

第1回：	○と×
第2回：	数と数字
第3回：	アルファベット
第4回：	“Nice to meet you.” と “Good to see you.”
第5回：	“Excuse me.” と “I’m sorry.”
第6回：	“Sir” と “Ma’am”
第7回：	“Uh-huh” ・ “Uh-uh” ・ “Uh-oh”

呼びかけ表現であって、その女性版“**ma’am**”同様、人種に関わらず、普通の人同士が使う表現としてごくごく当たり前で日常使われているのだということがわかりました。“**Sir**”と“**ma’am**”の用法は、これから述べる通り、もう少し複雑な様相を呈しているのですが、これらの表現は、日本と英語圏の国々との言語文化を比較する上でとても面白い材料を提供してくれると同時に、実用英会話で役立つ便利な慣用表現として、外国語活動の目標を達成する上で大変有益な表現の一つなのです。それが、今回“**sir**”と“**ma’am**”を取り上げる理由です。

### “Magic words”で「おはよう」と「おはようございます」を使い分ける

「いただきます」や「ごちそうさま」という表現は、そのような言語行動自体が英語圏の文化にはないために、字義通りの英語に直すと、英語として変な言い方になってしまいます。一方、前回や前々回の記事で書いたように、「どうぞよろしく」と“**Nice to meet you.**”との関係は、言う場面は同じであっても、言っていることは全然違っています。それでは、朝・昼・晩の挨拶はどうでしょう。“**Good morning.**”と“**Good afternoon.**”と“**Good evening.**”は、あまりに短くて、あまりに簡単に覚えられるので、何か、「おはよう」、「こんにちは」、「こんばんは」と、何の問題もなく、完全に一対一で対応しているように思

えます。でも、「早いですね」という意味の「おはよう」は、「(神様が) 良い朝をくださいますように」という意味の“Good morning.”とは意味が全然違います。朝誰かと出会ったときに言う挨拶ことばとしての機能は同じでも、意味は全然違うのです。ただ、アメリカで日本語を教えていたとき、習い始めのアメリカ人にとって、そういうことは全然問題になりませんでした。問題になったのは、「おはよう」と「おはようございます」の違いでした。この二つを英語に訳すと、どう違うんだというのです。日本で英語を習い始めたばかりの中学生に英語の挨拶を教えていた時には一度もされた経験のない質問です。丁寧さの度合いが違うという答えはできても、英訳してみるとと言われると、とっさには出てこなかったように思います。でも、南部での実生活の中で“sir”と“ma’am”の使い方がわかるようになってからは、

「おはようございます」は“Good morning, sir.”  
あるいは“Good morning, ma’am.”。一方、  
「おはよう」は“Good morning.”。

と答えるようになりました。この説明は、アメリカの南部の日本語学習者には実に分かり易いのです。なぜなら、南部では、大人の男性に敬意を表す時には“sir”を、大人の女性に敬意を表す時には“ma’am”を使うように小さい子どもの頃から叩きこまれているからです。同じやり方で“Good night.”と“Good night, sir/ma’am.”を並べれば、「おやすみ」と「おやすみなさいませ」の説明も一発ですみます。

逆に言えば、敬語システムが言語の全範囲に及んでいる日本人にとって、この“sir”や“ma’am”をつけるかつかないかで丁寧体と常体とを区別する方式は実に便利です。挨拶はもちろん、前回扱った謝罪や、感謝を表す時、およそ何を言うときにも、相手の性別に従って、“sir”と“ma’am”を加えるだけで、日本語の敬体と常体の区別を英語で表現することができるのですから。さまざまな形で表現される英語の敬意表現をわかりやすく説明するのは、英語専門の教員でもそれほど簡単なことではありません。でも、この“sir”/“ma’am”添加方式だと、「これをつけて言うだけで、あつという間に敬語表現ができあがるんだよ」と教えることができます。「～してくれる?」と「～していただけますか?」の違いを説明するのに、“Will you...?”と“Would you...?”を持ち出す説明は不要。「Will you...?”って言うか、それとも“Will you..., sir/ma’am?”って言う

かの違いだけでよ」で説明終了!となれば、こんなに便利なことはありませんね。それができるという意味では、敬意を表示するマーカーとしての“sir”と“ma’am”はまさに“magic words”。こんなに便利で実用的な英語はないと、私は思います。

### sir / ma'am の威力の証明

カナダ在住の大学教授に、次の Pair One と Pair Two の二つの組の各文の間の敬意の度合いの違いについてどんな風に違うと感じるか聞いてみました。太字の部分が彼の答えです。皆さん、その答えにきくと驚くと思います。

Pair One 1a. Can you sign here?

1b. Can you sign here, sir?

**1b is deferential, respectful, and implies perhaps the two individuals are strangers or at least of different social ranks (boss & employee, etc).**

(1bの方は尊敬表現で、敬意が込められていて、多分この二人は互いに見知らぬ者同士か、少なくとも、上司と部下みたいに社会的地位が違う者同士だね。)

Pair Two 2a. Can you sign here?

2b. Could you sign here?

**Not much difference between these two. 2b is perhaps slightly more polite, as in 'would it be possible for you to.'**

(敬意の面では、この二つの文はそんなに違いはないね。ただ、2bの方が少し丁寧かもしれない。“Would it be possible for you to sign here?”(できればここにご署名いただけますか)と言うときのような丁寧さがある。)

★英語の敬語と丁寧語の差という題で論文が書けそうですね。

### あらためて… “Ma’am” か “Madam” か

“ma’am”は、“madam”から“d”を省いてでき上がっていることばで、アポストロフィ(’)は“d”の省略を表しています。この二つの語の関係は、“isn’t”と元の形の“is not”との関係とはか全く異なります。“isn’t”と“is not”は、形は違うが意味は全く同じですが、“ma’am”と“madam”は形はもちろん、意味や用法も違って、いわば《棲み分け》がなされています。



“Madam”ということばを日々の会話の中で直に耳にすることはめったにありませんでしたが、よく見ていたケーブルテレビの番組で間接的に耳にすることは時々ありました。それは、アメリカやイギリスの議会や裁判の様態を生中継する C-SPAN というチャンネルです。アメリカ議会の委員会で、男性議員が女性の議長に“Madam Chair”などと呼びかけているのを耳にしたのを覚えています。

日常“madam”ということばを耳にするのは、そんな限られた文脈でしかありませんでしたが、“madam”ということばを目にする場面も限られていました。それは、“Dear Sir or Madam:”（又は comma を使って“Dear Sir or Madam, ”）という手紙の書き出しで使われるときです。この表現にいつどこで出会ったかを正確に思い出すことはできませんが、おそらく、毎日のように届く DM（ダイレクトメール Direct Mail）の中で使われているのを見たのが最初ではなかったかと思います。性別不詳の相手に宛てる手紙はこの書き出しで始まります。私の場合、仕事上“Dear Sir or Madam:”という書き出しで始まる手紙はよく書いていました。公立小学校で日本語を学ぶ子どもたちのためにぜひご寄付を！と地元のアメリカ企業に寄付を募る手紙です。せっせと書いて送っていたので“Dear Sir or Madam”は十八番です。

### Starting a formal email

You can start a formal email using ...

Dear Mr Mathews,  
Dear Sir,  
Dear Madam,  
Dear James,  
Dear Sir or Madam,

アメリカで過ごした11年半の間の私の“madam”体験は大体以上のようなものですが、前回紹介した [wordreference.com](http://wordreference.com) のフォーラム<sup>1</sup> や、英語の使い方を語り合うその他のフォーラム<sup>2</sup> を見る限り、ネイティブのアメリカ人たちが“madam”ということばについて語っている感覚や用法も私の体験と大して変わらないように思います。ただ、違いを感じ

<sup>1</sup> <http://forum.wordreference.com/showthread.php?t=1093969>

<sup>2</sup> 前頁の注1のサイトなど

るのは“ma'am”です。

## “Ma'am” にまつわる 国と地域の温度差

アメリカの“ma'am”は、イギリスやオーストラリアでは“madam”だと言われることが多いのですが、では、イギリスやオーストラリアで“ma'am”という言葉は使わないのかと言うと、勿論、そんなことはありません。イギリス、オーストラリアをはじめ、他の英語圏でも使います。ただ、やはり、使い方が違うのです。

同じアメリカ国内ですら、地域によって随分と温度差があります。

“ma'am”を遡るとフランス語の“madame”に辿りつきます。そして、フランス語の



“madame”は既婚者専用ですね。だから、どうしても「若くない」女性を指すというイメージがあるようなのです。そのため、アメリカの南部では、一般に、成人女性に敬意を表すために“ma'am”という表現を使い、時には、大人が小さな女の子に親しみを込めて使うこともあるくらいその意味と用法が浸透しているのに、それ以外の地域には、“ma'am”は30を越えた女性に使うものだと思います、“ma'am”と呼ばれるのを極度に嫌う若い女性たちが存在しているようです。そんな女性たちを意識してか、カントリー・シンガーの Earl Dibbles, Jr. はこんなツイートをしています。

Don't take offense if I call you Ma'am or Sir. It doesn't mean you're old. Where I come from, it's a sign of respect.<sup>3</sup>

(もしぼくがあなたのことを“Ma'am”とか“Sir”と呼んでも気分を害さないでくださいよ。それは、あなたは年が行っているという意味じゃないですから。ぼくの育ったところでは、そう呼ぶことであなたに敬意を表しているんです。)

ところが、このツイートとは全く対照的に、ある女

<sup>3</sup> <https://twitter.com/EarlDibblesJr/status/500434864521609217>

性プロガーは、こんな書込みをしています。

...But where I'm from, people only use "Ma'am" for women of a certain age. I'd feel really silly calling a twenty-year-old, "Ma'am."<sup>4</sup>

(…でも、私の育ったところでは、みんな“ma'am”ということばはある一定の年齢に達した女性にしか使わないの。だから、私だったら、20歳の女の子を“Ma'am”と呼ぶなんて本当に馬鹿げてると思うわ。)

この二つの発言を読むにつけ、生まれ育った環境による言語習慣の違いには埋め難い溝があることを感じずにはいられません。ちなみに、反“ma'am”陣営の若い女性たちは、じゃあ何と呼びかけてもらいたいのかと言うと、《30歳以下の女性には“Miss”と呼びかけて》という女性が多いようです。でも、“Miss”だと結婚している場合は変だし…。どうしたものでしょうね。

さて、一方、英国では“Ma'am”という表現は、女王陛下に対して使うものとされ、しかも、“Your Majesty”（「陛下」）と呼びかけてから後に再び呼びかける場合に使う、などかなり使用範囲が制限されています。オーストラリアやニュージーランドなど、英連邦王国に属する国々はすべてこのプロトコル<sup>5</sup>にしたがっています。

それだけではありません。驚くなかれ、南アフリカでは、アメリカやイギリスの用法とは真逆の使い方をしている、何と、“ma'am”は、敬意と品位を欠くことばとされているらしいのです。南アフリカ出身の女性がアメリカ南カロライナ州の Myrtle Beach に引越してきたときのカルチャーショックについてこんなことを書いています。プロフィール写真を見る限りは白人女性のようにお見受けします。

First, there was the language ... the Southern way of speaking is very different from what I'd

Don't Call Me Ma'am



call “proper” English. For example, I asked my children what they were calling their teachers and they told me “Ma'am”. I was in shock! In South Africa, where I had learned to speak English, “Ma'am” was considered both disrespectful and slang. So, I asked my children to use the more formal “Madam” instead. The next day, their teachers were waiting for me with big smiles on their faces. They politely explained the difference between “Ma'am” and “Madam.” Needless to say, my children called their teachers “Ma'am” from then on.<sup>6</sup>

(まず、ことばのことがありました。…南部の話し方は私が「正しい」英語と呼ぶものからは程遠いものでした。例えば、子どもたちに先生たちのことを何と呼んでいるのかと聞いたところ、“Ma'am” と言ったので、私はすごくショックでした！南アフリカでは、“Ma'am” ということばは敬意を欠く俗語表現と考えられているからです。それで、私は、その代わりに、もっと礼儀正しい “Madam” ということばを使ってくださいと言いました。すると、次の日、子どもたちの学校の先生たちが、満面の笑みをたたえて私を出迎え、“Ma'am” と “Madam” との違いについて私に丁寧な説明をしてくれたのです。そして、言うまでもないと思いますが、私の子どもたちはそのときからずっと先生たちのことを “Ma'am” と呼ぶようになりました。)



観光都市サウスカロライナ州 Myrtle Beach の海岸

ところが、さらに驚かされるのは、南アフリカにも、アメリカと同じような温度差があるらしいということです。実は、先程ふれた「私を Ma'am と呼ぶのはやめて!」とのブログページに南アフリカの若い男の子が次のようなコメントをしているのを見つけました。プロフィール写真を見る限り、こちら

<sup>4</sup> <http://kristenbrakeman.com/2013/04/10/dont-call-me-maam/>

<sup>5</sup> [http://www.uq.edu.au/protocol/docs/Forms\\_of\\_Address.pdf](http://www.uq.edu.au/protocol/docs/Forms_of_Address.pdf) 豪クイーンズランド大学の資料

<sup>6</sup> “Learn To Analyze, Overcome and Adapt In Life”  
Posted by A Meijerink on May 22, 2014  
<http://egm.empowernetwork.com/blog/learn-to-analyze-overcome-and-adapt-in-life>

は白人ではありません。

“Hi in South Africa we use ma'm and Sir most of de time is de way we pay respect to adult people tnx” [原文ママ]

(やあ。南アフリカでは、“ma'am”や“Sir”をしょっちゅう使ってるよ。大人の人たちに敬意を表す一つの方法だよ。どうも！)

この違いには、どうやら白人と黒人との間の言語文化的な違いが影響しているようにも思えますね。『巨人の星』で出てきた、あのオズマの“**Yes, sir.**”という一言が何だかよみがえってきたような気がします。単なる邪推ですが、もし南アフリカ出身のこの白人女性が、ついこの間まで、普段は下層民しか使わないはずだったことばを自分の子どもが使っているのを聞いてショックを受けているのだとしたら、あるいは、そこまで直接的ではないにしても、人種差別の歴史が、“ma'am”ということばに対する二人の感覚の違いに何らかの形で反映されているのだとしたら、人種問題というのは、政治的解決だけで人々の生活から消え去るものではないのだということに改めて思い知らされます。

### “Sir”や“Ma'am”/“Madam”を小学校から練習する理由—ちゃんと英語で「先生！」と言える力を身につけさせてあげよう

これまで見てきたように、“Sir”と“Ma'am”にはいろいろな色がついていて、とっても興味深いですね。特に“ma'am”はおもしろい。ところが、そういう新しい発見があったおかげで、かつてアメリカ南部の住人として“sir”や“ma'am”とともに平和に暮らしていたときほど気軽に使えなくなってしまう。でも、だからと言って、この記事の最初で書いたことが無効になるわけではありません。この二つのことばは、本当に便利で、実用的で、若い女性に“ma'am”を使うときに注意しさえすれば、敬語というシステムを持つ日本人の感覚にもびったり合う素晴らしい“magic words”であることには変わりありません。

ところで、日本語には、敬語以外のシステムに、肩書きを相手の名前の代わりに使えるというシステムが発達しています。つまり、「久野さんは…」と言

わずとも、「久野さん」が教師であることさえわかっていたら、「先生は…」でちゃんとコミュニケーションができるようになっていきます。

それで、かどうかはわかりかねますが、日本人は「肩書き」を本当によく使いますね。アメリカから戻ってしばらくは、日本の大学と複数の短大で英語を教えていました。初めの頃は、英語は英語で教えるんだ！と息巻き、常に英語でしか学生と話さないようにしていたせいで、授業中だけでなく、廊下などで出会った時も、「先生！」と言わず、“Teacher, teacher!”と呼びかけられることがよくありました。嬉しい反面、大変違和感、と言うか、むしろ不快感を感じたものです。アメリカナイズ(Americanize)ならぬサザナイズ(Southernize)されていたせいなのでしょうね。“Teacher, teacher!”などと連呼するのは、礼儀を知らない就学前の児童のやることだという意識が働いていたのだと思います。

もちろん、このことは学生たちに説明し、「先生！」と言いたいなら、“Mr. Kunoi!”か“Sir!”って呼びかけるんだよと説明はしますが、すぐには直りません。前回の連載記事でもふれたように、一旦“teacher”＝「先生」という1対1の関係が成り立ってしまうと、「先生！」と呼びかける時に頭の中に咄嗟に出てくる“teacher”という音声を別のものに置き換えるのは至難の業です。一方、いま小学校の英語活動には、気軽に話せる簡単な話題で子どもたちが先生に話しかける機会があふれています。今から、そういう機会に、“Teacher”ではなく、“sir”や“ma'am”で呼びかけることを子どもたちに教えてあげておけば、東京オリンピックが開催される頃には、日本を訪れてくれる外国のお客様たちを、小売店、レストラン、ホテルなど、ありとあらゆるおもてなしの場で気持ち良くお迎えできるようになるのではないかと思います。ぜひ、いまから、この2つの magic words—“sir”と“ma'am”—を使う練習を小学校で始めてもらいたいものだと思います。

#### 先生に対する正しい呼びかけ方って？

カナダ英語のネイティブの回答：“Hey, teacher” sounds rather rude to me, though I have been addressed this way on more than one occasion. If you don't know the name, “sir” for a man and “ma'am” for a woman is correct. I don't like being called “miss.” At the university level, “professor” is also acceptable.

<http://forum.wordreference.com/showthread.php?t=2685605> より 2014年11月10日に取得

◆ 1月24日に特別企画のワークショップを開催します！

2月28日(土)の実用英語教育学会第4回研究大会に先立って、特別ワークショップを企画しました。10月の當作先生のワークショップに次ぐ第2弾の特別企画です。皆さん、お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

『英語授業の「幹」を作る本』著者

## 「北原延晃 先生による 英語授業研修会」



『英語授業の「幹」を作る本』の著者、北原延晃先生の生徒を伸ばす英語指導法は、全国的に注目を集め、テレビ、新聞にもたびたび取り上げられてきました。各地の教員研修の講師としても引っ張りだこの先生です。

すべての生徒に確実に力をつける英語の指導法「北原メソッド」による授業づくりを北原先生から直接学ぶ公開ワークショップです。

● 日 時 : 2015年1月24日(土) 10:30~16:00

● 場 所 : 札幌大谷大学 中央棟3階 講義室3

北海道札幌市東区北16条東9丁目1-1

● 講 師 : 北原 延晃 先生 (東京都港区立赤坂中学校)

● 予 定 : 9:30~ 受 付

10:30~12:00 講義1 英語の幹をつくる(上)

13:15~15:30 講義2 英語の幹をつくる(下)

15:30~16:00 Q & A

● 主 催 : 実用英語教育学会 SPELT

● 後 援 : ベネッセコーポレーション

● 参加費 : **SPELT会員は無料**。一般1,000円(一日通して)

● 定 員 : 50名

● 申し込み方法 : 実用英語教育学会のHPからお申し込み下さい。

● 講師紹介 :

東京都葛飾区生まれ。東京都の公立中学校5校を経て、現在、港区立赤坂中学校教諭。東京都中学校英語教育研究会研究部部长。英語基本指導技術研究会(略称 北研) 主宰。

生徒の英語力を伸ばし、自立した学習者を育てるその指導法は、データにより効果を常に検証・改善され、全国の先生方に広がり、各地で効果を上げている。

主な著書: 文部科学省検定教科書『Sunshine English Course』、『決定版! 授業で使える英語の歌20』(以上共著、開隆堂出版)、『新・中学生のための LISTENING TRAINING POWERED』(共著、学校図書)『英語授業の「幹」をつくる本(上巻・下巻・テスト編)』(ベネッセ)。

## ◆ ホームページもご覧ください

実用英語教育学会のニュースレターや紀要などがアップされています。こちらです⇒<http://spelt.main.jp/>

## ◆ 会員募集のお知らせ

実用英語教育学会では2014年度新会員を募集しています。年会費は一般会員4,000円(学生, 院生3,000円)です。

## ◆ 新規入会の申込手続き

メール(電子メール)による入会申込みあるいは郵便振替による会費納入によって、入会手続きを完了することとさせていただきます。メールのメッセージ本文に下記の必要事項をご記入いただき、事務局までご送信ください。なお、SPELTのホームページのフォーム(FORM)を使って申込手続きを行うこともできます。⇒お申込用フォームへは[ここから](#)

- ・漢字御氏名(例: 北海 道子)
- ・ローマ字御氏名(例: HOKKAI Michiko)
- ・御住所(郵便番号を含み、都道府県から始めて御記入願います。なお、その御住所が【自宅】か【勤務先】か、【公開】か【非公開】かの別を明記してください。)
- ・御電話(半角英数でハイフンを付けて下さい。御住所同様、【自宅】・【携帯】・【勤務先】の別、並びに、【公開】・【非公開】の別を明記してください。)
- ・御所属(大学生、大学院生の場合は【学生】と明記して下さい。)
- ・メールアドレス(普段からお使いのものを御記入ください。また、携帯電話のメールアドレスはなるべく御遠慮ください。【自宅】・【携帯】・【勤務先】の別、【公開】・【非公開】かの別も明記してください。)

### □年会費納入の手続き

学会事務局(下記口座)まで、必ず送金者氏名を明記のうえご送金ください。なお、恐れ入りますが振込み手数料は各自でご負担願います。

【名義】実用英語教育学会

ゆうちょ銀行 記号 19060 番号 10312621

※他の金融機関から振込みする場合

【店名】九〇八(読み キュウゼロハチ)

【店番】908 【預金種目】普通預金【口座番号】1031262



## 編集後記

今回は、第3回研究会の様子をお届けしました。他の研究会との共同企画という初めての試みでしたが、英語のみならず、中国語の指導者の方々にも多数ご参加いただき、違った視点からルーブリックについて考えることができました。次は、2月には研究大会が予定されております。皆様、また是非ふるってご参加ください。

### 実用英語教育学会

編集: *SPELT Newsletter* 編集委員(三浦寛子・杉浦理恵・久野寛之)

発行: 2014年12月1日

事務局: 〒065-8567 札幌市東区北16条東9丁目1番1号

札幌大谷大学社会学部地域社会学科 久野寛之 研究室内

TEL: 011-742-1899(直通) Fax: 011-742-1654(代)

Email: [info@spelt.main.jp](mailto:info@spelt.main.jp) ※◎を@に変更してください。